

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第2回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	平成30年12月20日(木) 午後6時00分から 午後7時15分まで
開 催 場 所	吉川市役所第301会議室
出席委員(者)氏名	手塚崇子委員(会長)、玉生一美委員、高井良奈緒美委員、新井一弘委員、黒木武美委員、水野和希委員
欠席委員(者)氏名	吉岡弘美委員、五十嵐修委員
担当課職員職氏名	こども福祉部長 伴茂樹 こども福祉部副部長兼保育幼稚園課長 本間貴明 こども福祉部子育て支援課長 山崎純子 こども福祉部障がい福祉課長 加藤利明 こども福祉部子育て支援課 課長補佐兼給付・相談係長 飯野耕太郎 こども福祉部子育て支援課 子育て支援係長 青柳乃り恵 こども福祉部子育て支援課 子育て支援係 主事 石井賢聖 こども福祉部子育て支援課 子育て支援係 主事 今関夕貴 健康長寿部健康増進課 母子保健係長 稲見絹子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 議事 (1) 吉川市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について (2) 吉川市子どもの貧困対策推進計画策定について 3 その他 (1) 施設の紹介について (2) その他 4 閉会 ※ すべて公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍 聴 者 の 数	なし
会 議 資 料 の 名 称	・資料1 吉川市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について ・吉川市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(未就学児の保護者用) ・吉川市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(小学生の保護者用) ・吉川市子どもの貧困対策推進計画(素案) ・吉川市こども発達センターパンフレット ・吉川市子育て世代包括支援センターパンフレット
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録

会議録確認指定者	玉生一美委員、水野和希委員
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>資料の確認</p> <p>1. 開会</p> <p>開会の宣言</p> <p>こども福祉部長あいさつ</p> <p>市では今年度、保育園と認定子ども園の整備を進めており、定員ベースで190名分を見込んでいる。今年度の4月1日現在で48名の待機児童を抱えていたが、その解消に向け現在全力で取り組んでいるところである。本日も忌憚のないご意見を頂戴したい。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 吉川市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料1 吉川市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について</p> <p>(事務局より資料1について説明)</p> <p>(質疑応答)</p>
委員	<p>ニーズ調査の質問項目問15に幼稚園や保育園の利用料が無償化されると示されている。詳細について説明してほしい。</p>
担当課	<p>来年の10月から保育所・幼稚園・認定こども園の利用料が、3歳以上5歳までは、所得に関わらず全員保育料が無償。また、0歳から2歳までは住民税非課税世帯のみ無償となる予定である。</p>
委員	<p>来年のゴールデンウィークは10連休になると聞いているが、園に</p>

事務局	<p>来ないことで、食事が摂れない、一人で自宅や公園で遊んでいる等、心配な家庭が多い。また保護者からも開所してほしいとの要望があがっている。今後何らかの対策が必要と考える。</p> <p>(2) 吉川市子どもの貧困対策推進計画策定について</p> <p>【関係資料】</p> <p>吉川市子どもの貧困対策推進計画（素案）</p> <p>(担当課より素案について説明)</p> <p>今後のスケジュールについては、パブリックコメントを1月下旬まで実施し、市民より広く意見を聴取しながら、年度末までに計画を策定する予定である。また、計画を実施していく過程では、この児童福祉審議会で進捗状況を報告させていただきたい。</p>
委員	<p>(質疑応答)</p> <p>49頁(2) 学校を窓口とした相談支援の充実について、市と学校との連携は非常に重要と考えている。ぜひ積極的に推進してもらいたい。</p>
委員	<p>子どもの貧困対策推進計画と生活保護政策との関連について伺いたい。</p>
事務局	<p>経済的な水準の捉え方については、2頁にお示しているとおりのグループⅠ、グループⅡを「低所得層」として位置付けている。</p> <p>「中学生以下の子どもがいる世帯のうち低所得線を下回る世帯」の割合は、7.4%。「中学生以下の子どもがいるひとり親世帯のうち低所得線を下回る世帯の割合」は、44.4%となっているが、ここには生活保護世帯も含まれているものと考えている。</p> <p>また貧困は、経済的な問題に加え、地域で孤立しているなど複合的な問題を抱えていることが多く、それらを総合的に勘案し計画を推進していきたい。</p>

委員	低所得者の内訳は、数字で示せるのか。
事務局	この調査の対象者は全市民ではなく、乳児世帯、保育園・幼稚園年長児世帯、小学5年生世帯、中学2年生世帯に対して実施したものであり、あくまで目安的なものと考えていただきたい。よって詳細な内訳を数値でお示しすることはできない。
委員	親に対する支援は、金銭面など経済的な部分が大きいと認識している。しかし、子どもに対する支援を施策に盛り込み、具体化して取り組むのは難しいと感じているが、市の考えはいかがか。
事務局	経済的な支援は今後も継続し実施する予定である。また、この計画の目的は「貧困の連鎖」を繰り返さないための、長期的なものとして捉えていただきたい。そのため、子どもたちが今貧困であっても、将来希望をもって生きていけるよう、市に何ができるのか現在検討を重ねているところである。特に進学や学習の問題を大きなテーマとして、具体的な取り組みを示すとともに、親に対する支援、子どもに対する支援など、幅広く対応できるものとしたい。
委員	48頁 施策4-2「子どもや家庭を見守り育む地域づくりの推進」(2)身近なロールモデルの創出について、具体的なイメージはあるのか。
事務局	例を挙げると、寺子屋事業や青少年相談員など地域で大人が集まる場に子どもが来る、または子どもが集まっている場に大人がいくなど、地域の身近な場所を考えている。生き生きと活動している大人と接することで、子ども自身が「孤立から解放される」、「コミュニケーションが生まれる」、「意欲が沸く」など良い経験をして、何かを感じる。そこで働く大人を手本にしていくようなイメージであ

	<p>る。地域で様々な良い動きが生まれるための市からの発信と考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>子どもの居場所は大変有効であるが、三輪野江地域や旭地域の子どもたちは移動手段の確保が難しいため活動ができない状況にある。学区が広いため、地域の見守り体制も必須である。その部分を市がバックアップしてもらえるとありがたい。</p>
<p>委員</p>	<p>高富の寺子屋のように、地域で子どもを育むという取り組みが進んでいる。見守りについては、地域の方の協力が必要不可欠であり、見守りをしてくれる方へのバックアップの必要性を強く感じている。</p>
<p>事務局</p>	<p>計画を策定するうえで「地域力」を引き出し、それを大切にしていきたいと考えている。そのための新規事業として「基金」を考えている。行政が公費を投入し、行政主導で運営するのではなく、行政も参画しながら、手を挙げる市内の企業・団体・個人など仲間を募って基金を立ち上げ、ルール作りをした上で必要な支援を、必要な場所にしていきたい。</p> <p>寺子屋、子ども食堂など自主的な活動をしている団体に支援が行き渡れば、市民の関心も高まり、新しい流れが出来ると考えている。また、これを契機として実効性のある計画としたい。</p>
<p>委員</p>	<p>吉川市の子ども食堂も市との連携が図られ、子どもの居場所として非常に有効であると感じている。安心感を持って相談できる場所、子どもがSOSを出せる場所、本音が話せる場所、時間がない保護者や余裕がない保護者がほっとできる場所があることは、貧困や虐待の防止につながると考えている。それには関係機関が連携すること、また基本理念である「であう・きづく・つなぐ・つなげる」に基づき、人材の育成をしながら次の世代につなげるのも非常に大切</p>

	<p>なことである。</p>
委員	<p>青少年相談員の年齢層が上がっている。主要メンバーが30代であり、20代は不在。現在、後継者がいないため問題となっている。人材の掘り起こしが必要であり、またその循環が身近にあるのが理想と考えている。</p>
委員	<p>他人から認めてもらいたいと思っている子どもは多い。人のためにしたことが、結局は自分に返ってくるなど、「自分は必要とされている」という良い体験をすることで、その後の活動や経験につながっていくと思う。</p>
委員	<p>寺子屋に来た子ども達が、今度は教える側になるという良い循環が生まれる。それが継続していくことも大切。</p>
委員	<p>寺子屋に対する市補助金は件数に制限があると聞いているが、実際はどうか。</p>
事務局	<p>現在そのようなことはない。34頁に示したとおり、目標値としては9か所である。子どもの居場所の一つとして位置付けている。</p>
委員	<p>「取り組みの方向性」は非常に業務数が多いと感じるが、実効性のあるものにできるのか。機能させるために優先順位をつけることも必要でないか。</p> <p>また、現在の民生委員の活動は、防犯上や個人情報の問題があり、子どもへの支援活動がしにくい状況にある。そのため、虐待や貧困を把握できなくなっているのが現実である。この計画で具体的な取り組みが示されれば、活動もしやすくなると考えている。一方で、支える側の育成についても考えてほしい。また、行政側から地域を盛り上げるような提案もしていただきたい。</p>

事務局	<p>貧困や虐待は気づかない、見えにくいというものである。市民に知らせること、また気づく目を持ってもらえること等、市として何が出来るのかを考え、出来ることから取り組んでいきたい。具体的には49頁の「子ども未来応援集会」等で多くの方に発信し、伝えていきたい。</p>
事務局 担当課 担当課 事務局	<p>3. その他</p> <p>(1) 施設の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吉川市子育て世代包括支援センターの紹介 ・ 吉川市こども発達センターの紹介 <p>(2) その他</p> <p>事務局からの連絡事項として「児童福祉審議会の次回の予定について」</p> <p>(主な説明概要)</p> <p>次回の児童福祉審議会は、来年3月を予定している。議事については、子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果、また吉川市子どもの貧困対策推進計画について改めて報告をしたいと考えている。今後とも引き続き協力をお願いしたい。</p> <p>4. 閉会</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成31年1月21日

署名委員 玉生 一美 自署

署名委員 水野 和希 自署